



その先の、道へ。北海道
Hokkaido. Expanding Horizons.



北海道支部

日本赤十字社
Japanese Red Cross Society

赤十字 ほっかいどう

もっと伝えたい。北海道の赤十字のこと。



2018
春号



4月6日、新年度が始まり第1回目の授業での一場面。
これから迎える実習のためにより実践的な看護技術を学ぶ看護学生。
(伊達赤十字看護専門学校 2年生)

目次・・・

赤十字災害救護訓練 - - - - - 2P
新指導員が誕生 ～救急法、幼児安全法～ - - 3P
東日本大震災義援金募金活動 - - - - 4P

脈々と受け継がれる赤十字精神 - - - 5P
こころのケア要員研修会 - - - - - 6P
わが町の赤十字奉仕団 - - - - - 7P

赤十字災害救護訓練 実施

1月27日(土)・28日(日)、札幌市立旭小学校を会場に「赤十字災害救護訓練」を開催しました。

今回の訓練は、冬季の災害救護活動の課題研究と救護班の災害対応力強化を目的とし、道内10の赤十字病院救護班をはじめ、赤十字奉仕団、青少年赤十字メンバー、地元住民の方など、2日間合わせて約150名の参加がありました。

訓練では、冬季に直下型地震が発生、発災3日後に同会場体育館に開設された避難所へ救護班が派遣された想定のもと、実際に体育館の暖房を止め、室温が3℃まで下がる寒い環境の中、巡回診療・アセスメントの実働訓練を行いました。

実際に参加した救護員からは「想像していた以上にかなり寒かった」といった感想も聞かれ真冬の救護活動の難しさを考える機会となりました。

この他、日本赤十字北海道看護大学 根本 昌宏 教授による「冬の災害を生き抜くために～マイナス20℃の避難所検証を踏まえて～」の講演や地元住民の方、青少年赤十字メンバー参加による「地域で守る赤十字防災セミナー」(地域防災マップづくり)、赤十字奉仕団、青少年赤十字メンバーによる炊出し・配食訓練なども行われ冬季の災害に対する備えの重要性を再確認しました。



日本赤十字北海道看護大学 根本教授の講演



防災マップ作り(青少年赤十字メンバー)



野外でのテント設営訓練



避難者役に聞き取り調査を行う救護員



ほっかいどう 防災ひろばinチ・カ・ホ

防災に関わる行政や企業が連携し、多くの方に防災を知って体験してもらうイベントが、1月20日(日)に札幌市の地下歩行空間で開催されました。

日赤北海道支部ではAEDの使い方が体験できるコーナーを設け、たくさんの来場者に体験してもらいました。

イベントでは、防災クイズや災害時に飲料を無料で提供する自販機の紹介などが行われ、多くの方に防災を考えるきっかけとなるイベントになりました。



「アンリー」も他のマスコットと一緒に頑張りました

キッズランドinガトキン

2月24日(土)・25日(日)の2日間、シャトレゼ ガトーキングダムサッポロを会場に「キッズランドinガトキン」が開催されました。

北海道支部では、今回、初めて参加し、子どもの心肺蘇生法・AED体験コーナーを設け来場した皆さんに実際に体験してもらいました。

当日は、多くの親子連れで賑わうなか、北海道支部の体験コーナーもたくさんの方に体験してもらうことができました。



たくさんの方に体験してもらいました

新指導員が誕生 ～救急法、幼児安全法～

昨年9月～10月にかけて行われた候補者研修・本講習、そして1月に行われた新任指導員研修、合わせて9日間に及ぶ長いカリキュラムを修了し、このたび幼児安全法指導員10名、救急法指導員10名が誕生しました。

今後、先輩指導員とともに地元での講習や赤十字の普及など盛り上げていきます。



救急法指導員(旭川会場)



幼児安全法指導員(札幌会場)

青年赤十字奉仕団第1ブロック協議会統一キャンペーン 東日本大震災義援金募金活動

平成30年3月11日(日)、北海道青年(学生)赤十字奉仕団協議会主催による、「東日本大震災 義援金募金活動」が札幌駅南口駅前広場で行いました。

この活動は、今年度、北海道・東北各県で組織される第1ブロック青年(学生)赤十字奉仕団協議会の統一キャンペーンとして行われたものです。

募金活動の前日は、札幌市青年赤十字奉仕団、伊達並びに浦河赤十字看護専門学校学生奉仕団、日本赤十字北海道看護大学学生赤十字奉仕団の団員19名が集まり、「災害記憶の伝承と青年(学生)赤十字奉仕団の役割」をテーマとした研修を行い、グループディスカッション通して相互理解を深めました。

募金活動当日は、「東日本大震災から7年が経過した、今日、改めて災害を忘れてはいけない。またそれらを風化させないように伝承させなければならない。」と気持ちを団結させ、街頭で通り行く人たちに大きな声で募金を呼びかけ活動に臨みました。



総 会



研 修 会



札幌駅南口駅前広場での募金活動

道南地区冬季トレーニング・センター

青少年赤十字加盟校の子どもたちが、合宿で他校の学生と交流し、赤十字の歴史や事業、精神などを学ぶトレーニング・センターが1月11日(木)・12日(金)、函館市を会場に行われました。

トレーニング・センターは、夏に道央・道南・道北の3会場で行われていますが、道南地区は毎年、冬にも開催しており雪での灯ろう作りなど冬ならではのプログラムが行われています。

寒い外での活動が多いにもかかわらず、楽しく学べる内容に子どもたちの笑顔がはじけていました。



雪での灯ろう作り

第1ブロック

青少年赤十字指導者研究会・青少年赤十字活動研究大会

北海道並びに東北6県の青少年赤十字指導者に対して青少年赤十字事業の普及、指導者の研鑽と連携を図ることを目的とした研究会(研究大会)が2月2日(金)・3日(土)に札幌市で開催されました。

本会では、札幌市立宮の森小学校を会場に公開授業「避難経路を確保せよ!」を行い参加した札幌市内をはじめ多くの先生方に赤十字の防災教育や青少年赤十字への理解に繋げることが出来ました。

この他、北海道並びに東北の各学校における青少年赤十字活動への取組みについて意見交換がされ各地域の特色ある活動を共有することが出来ました。



公開授業

脈々と受け継がれる赤十字精神

～2奉仕団が60年・20年迎える～

稚内市赤十字奉仕団 創立 60 年を迎え、1 月 20 日(土)、記念式典が執り行われました。

同奉仕団は団員631名で、公園の花壇整備・清掃活動また、毎年市内で行われるイベントに参加し、地元青少年赤十字加盟校の生徒と炊出し訓練を行っています。

式典では、長年にわたり活動している団員53名に有功章や感謝状が手渡されました。



感謝状を受け取る日名委員長(右)



20周年を迎えた池田町赤十字奉仕団の皆さん(中央:大熊委員長)

池田町赤十字奉仕団 創立 20 年を迎え、2月28 日(水)、記念式典が執り行われました。

同奉仕団は団員11名で、毎年町内で行われるイベントへの参加による赤十字PR活動や十勝管内のボランティア研修会への参加による研鑽など行っております。

式典では、奉仕団並びに長年にわたり活動している団員5名に有功章や感謝状が手渡されました。

こころのケア要員研修会

2月27日(火)・28日(水)、日本赤十字社北海道支部を会場に「こころのケア要員研修会」を実施し道内赤十字病院から18名が参加しました。

この研修では、こころのケア要員(指導者)として被災地に派遣された場合、どのような準備が必要になるのかなど、災害現場での対応力を磨くため、活動にあたっての知識を学ぶとともにハンドケアやリラクゼーションなど健康生活支援講習の技術について実技研修を行ないました。

この他、神戸赤十字病院 村上典子心療内科部長による「他団体との協働・連携とセルフケア」についての講義のあと、テーマに沿って他組織との連携についてロールプレイを行いました。

救護活動経験の少ない参加者も実際の活動をイメージしながら熱心に取り組んでいました。



リラクゼーション実技研修



神戸赤十字病院 村上典子心療内科部長による講義

第46回北海道赤十字スキーパトロール競技大会

全道各地のスキー場でパトロール活動などを行っているスキーパトロール赤十字奉仕団が一堂に会し、応急手当と迅速な搬送技術を競う大会が3月18日(日)に倶知安町で開催されました。

大会には、12チーム71名が参加し、傷病部位を的確に手当てし搬送用のボートに載せ、速くかつ安全に搬送する競技など計3種目が行われ、日ごろの活動で培った技術を競いました。

大会期間中には、雪上安全法指導員研修会も同時開催し、研修会に参加した指導員も救急法の実技競技にオープン参加しました。

白熱した競技の結果、夕張市スキーパトロール赤十字奉仕団が総合優勝を果たしました。



搬送競技

看護師の夢、また一步 ～看護専門学校・看護大学 卒業式～

伊達・浦河赤十字看護専門学校、日本赤十字北海道看護大学(北見市)で卒業式・学位記授与式が行われ、合わせて105名が学び舎を巣立ちました。

看護専門学校の卒業式では、伝統の制服に身を包んだ学生たちが卒業証書を受け取り、共に支えあった仲間との思い出を振り返りました。

卒業生は、それぞれの決意を胸に道内赤十字病院をはじめ、医療機関で看護師としての一步を踏み出します。



答辞を読み上げる卒業生代表(伊達赤十字看護専門学校)

わが町の赤十字奉仕団

旭川市赤十字奉仕団は、昭和23年4月に北海道で初めての奉仕団として結団し、今年で創立70周年を迎えます。

結成当初は、被災者への救援物資の配布や、社会福祉施設への慰問を中心に活動をしてきましたが、昭和50年代以降は社資募集を中心に活動しております。

現在は約240名の団員が、社資募集活動やイベントなどを通じて赤十字思想の普及に取り組んでいます。

社資募集活動は、毎年度、町内会を対象に「社資募集説明会」を開催し、町内会会員への社資募集をお願いしています。近年は、町内会での募集方法が戸別訪問から町内会一括になることに伴い、団員が企業や個人宅を訪問しての社資募集の重要度が増しています。

旭川市赤十字病院が毎年5月に実施している、赤十字フェスティバルへの協力や血液センターからの要請による献血啓発ではイベントや献血ルーム、移動献血車の出動に合わせて献血の呼びかけをおこない、市内の赤十字施設とも連携して赤十字活動の推進に取り組んでいます。

今年度は70周年の節目に合わせて基礎研修や炊き出し、そして結成当初から継続して実施している皇居勤労奉仕活動などの事業を実施し、団員の知識・技術の向上にも努め、奉仕団の信条のもと、地域に根ざした奉仕活動を続けてまいりたいと思います。

旭川市赤十字奉仕団 委員長 菅野 淑子



赤十字フェスティバルへの参加



献血への呼びかけ

たくさんのご協力ありがとうございました。
～活動資金にご協力いただき、表彰された方々を紹介します～
(敬称略)

金色有功章 ～社資納入額50万円以上～

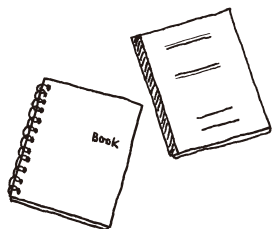
【札幌市】 山鼻サントウン自治会
【岩見沢市】 春木 昌作
【南幌町】 吉田 政夫
【支部】 川邊 昌治
【支部】 川邊 キミ子
【支部】 エヌテック株式会社
【支部】 医療法人社団進和会
旭川リハビリテーション病院

銀色有功章 ～社資納入額20万円以上～

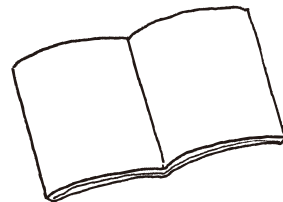
【支部】 税理士法人さくら総合会計
【支部】 札幌輸入車販売促進協会

社長感謝状 ～金色有功章受章後さらに50万円以上～

【支部】 佐藤工業株式会社札幌支店
【支部】 日本ユニパック株式会社
【支部】 岩田地崎建設株式会社
【支部】 株式会社ムトウ
【支部】 株式会社ツルハホールディングス



平成 30 年 4 月より開始



ボランティア宅本便プログラム

読み終わっていらなくなった本、聞き飽きた CD、遊び終わったゲームソフトなどを捨ててしまうならば、誰かの笑顔のために役立てていただけませんか？

平成 30 年 4 月より日本赤十字社とブックオフとが連携しブックオフにお売り頂いた代金が赤十字活動のために寄付されます。

お申し込み方法はとっても簡単！



箱詰めして・・・



専用フォーム



支部 HP の
専用フォームより申込み

ブックオフが集荷に！

皆様のご協力をお待ちしております。



今年度も赤十字の活動資金にご協力をお願いいたします。

日本赤十字社は、災害救護活動などを行う民間の団体です。

その活動は、国や地方自治体からの補助金ではなく、みなさまからの寄付に支えられています。

活動資金へのご協力は、日赤北海道支部または、お住まいの市町村役場などの日赤窓口で受付しておりますので今年度も赤十字の活動資金に継続したご支援・ご協力をいただきますようよろしくお願いいたします。

北海道 150 年 記念セレモニー

北海道 150 年事業実行委員として北海道支部も参加しております「北海道 150 年事業」について平成 30 年 8 月 5 日(日)に北海きたえーるを会場に記念セレモニーが開催されます。

一般開放の会場も多数ありますので多くの方のご来場をお待ちしております。



その先の、道へ。北海道
Hokkaido. Expanding Horizons.



発行日 平成30年4月20日

発行元  日本赤十字社
Japanese Red Cross Society 北海道支部

札幌市中央区北1条西5丁目
TEL: 011-231-7126



公式 facebook で 情 報 発 信 中!
<https://www.facebook.com/hokkaido.jrc>



日 赤 北 海 道 検 索
<http://www.hokkaido.jrc.or.jp>